

令和6年度 第2回社会教育委員会議事録

【日時】 令和6年（2024年）10月25日（金）15：00～17：00

【場所】 市役所3号館5階 正庁

【出席委員】

議長	梨本 加菜
委員	臼井 護
委員	河井 眞二
委員	常田 風花
委員	蛭田 道春
委員	山岸 雅人

副議長	櫻井 聡
委員	加藤 直保子
委員	小林 純子
委員	林 但
委員	藤沼 直美
委員	吉田 晴美

【欠席委員】

委員	浦野 千鶴
委員	八矢 信宏

委員	志村 直愛
----	-------

【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃
同課主査	島内 さおり
同課アシスタント	大石 紀子
児童図書館長	上野 誠
同課指導主事	北井 友理

生涯学習課長	杉山 賢一
同課主任	遠藤 雅弘
中央図書館長	柿原 美奈
教育指導課長	鈴木 史洋
子育て支援課主査	澤村 亮

1 開会

事務局が会議の開催を宣言し、議長が会議の進行を開始した。

定足数について

委員15名のうち12名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第4条第1項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者0名）、配布資料の確認を行った。

2 報告

(1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会第2回理事会について

神奈川県社会教育委員連絡協議会理事でもある委員（以下、社教連理事）が報告を行った。

<質疑応答>

委 員 大会の規模、参加人数はどれくらいか教えて欲しい。

社教連理事 関東甲信越静で、参加規模は700名程度を想定している。

委 員 私が今までスポーツ関連で参加した大会は、全国から2000～3000人だったもので、規模が気になった。

社教連理事 では、ぜひご経験を生かしてお力添えいただけるとありがたい。

委 員 規模によっては心構えが違ってくるのでお尋ねした。

社教連理事 前回の大会を経験した他の理事さんたちの話では、部会によっては会場が、鎌倉・海老名などにわかれていて、かなり移動の負荷が大きかったが、今回は横浜市内での開催になるので、今回はぎゅっとコンパクトに出来そうだと聞いた。

(2) 第4次子ども読書活動推進計画進行状況（令和4年度実績）について

中央図書館長が報告を行った。

<質疑応答>

議 長 では私から1点、学校司書の配置について。中学校の司書の配置が令和4年度以降、10ページ表の7のところが確かに増えているということがわかったが、小学校についてもそれまで令和3年度までは21校45.7%が令和4年度には100%に上がっている。小学校についても変化があったのか。

中央図書館長 先ほど10ページ6の指標が伸びているという説明をさせて頂いたが、確かに7のところも日常的に開いている学校の割合というのが令和4年度は3年度に比べて両方とも100%。小学校については、かねてより全校司書配置ということになっていた。中学校は令和4年度から配置になっているが、そのことで小学校も何か活性化されたのかは、持ち帰らせていただければと思う。（※持ち帰りとなった質問への回答は、別添「第2回社会教育委員会議の際にいただいたご質問への回答」をご覧ください。）

- 議 長 中学校が目覚ましい実績値を上げ、小学校も上がっているので少し気になったところ。
加藤委員はこの点について何かあるか。
- 委 員 小学校と中学校の方ではどちらも 100%になったということで、司書がいるということで
学校図書館の活性化につながるということを実感している。
- 議 長 他にご質問はあるか。
- 委 員 電子図書館の話があった。これは私が社会教育委員になってから図書館の報告を聞くたび
に電子書籍はどうにかならないかという話を毎回のようにしつこく言って、ようやく形に
なりましたね、おめでとうございますという感じ。これと電子書籍とも絡めてこの春くら
いから図書館に関係する SNS を用いた情報発信がすごく活発になっている印象を受け
ているが、子ども読書活動推進計画等も絡め、一般の利用も含めて、何かそのあたりで広
報に力を入れていることはあるか。
- 中央図書館長 ありがとうございます。中央図書館はじめ、児童図書館・北図書館・南図書館とある中で、
おはなし会や映画会など色々行っているが、市民に知られてないというのが非常にもった
いないと思い、各館なるべく X（エックス）などの SNS を使い、今年度はとにかく情報
を出していきましょうと。
図書館のホームページに載せる、図書館の X を使う、あとは市の公式の X で周知してもら
うなど、意識して行っていきたい。
- 委 員 ありがとうございます。それが数字になって現れるのを期待している。
- 副 議 長 確か去年か一昨年の社会教育委員会議で見た資料の 1 ヶ月間の平均読書冊数のところで、
1 人の子がもの凄くたくさん読んでいて、たくさん読む子と全然読まない子がいたとして
平均をとると中間が出てしまうので、そう言ったところも次回は数字に反映して行けたら
いいですねというような話があったと思うのだが、そのあたりの工夫はされたか。
- 中央図書館長 アンケートの中ではその辺りの工夫というのが出来ていない状況。ただ、一冊も本を読ん
でいないお子さんの統計、不読率も取っているので、ここで報告させていただく際に併せ
て載せるべきだったとお話を伺っていて思った。次回からは忘れずに報告したい。
- 副 議 長 ありがとうございます。PTA のアンケートで、読む子は物凄く読むが、読まない子は
全然読まないというのが気になったので、何か工夫があればと思った。
それと前回も話したと思うが、漫画は入ってない・ライトノベルは入っている、でいいか。
- 中央図書館長 ヤングアダルト部門のものをライトノベル的に呼ぶとすればライトノベルは入っている。

副 議 長 承知した。あと、学校との連携は具体的にどのようにしているか。

中央図書館長 学校の司書教諭の方や先生との連携のほか、図書館の団体貸し出しを利用して頂いたり、職場体験で図書館を訪れていただく等の内容になっている。

副 議 長 理解した。もう1点。教科書の中に例えば文学に関して、図書館の利用や本の貸し出しを前提としてのカリキュラムがあるかと思うが、司書が入る以前に中学校によっては学校図書館が開いておらず、その部分の勉強が出来なかったという保護者からの問い合わせをもらった事があった。今は全部学校図書館が開いているという事で、授業・カリキュラムの中で図書を利用するということもあるのか。

中央図書館長 先日1校、学校図書館を見学させてもらった。国語の授業なのか、先生が学校図書館に1クラス全員を連れてきて、本の借り方返し方などの説明をしている授業だった。おそらく他の学校でもされているのではないかと思います。

副 議 長 ありがとうございます。

委 員 質問ではないが、最近、「児童図書館に来ませんか」と、こども園に手紙でお知らせが来るので必ず参加し、読み聞かせをして頂いたり、本の借り方とかも教えて頂いたり、どこから出したかが分かるようなカードを使わせて頂いたりしている。終わった後に、1ヶ月50冊くらい本を貸して頂いて、返しにいきながらまた借りるといった形で児童図書館を活用している。子どもたちが本に親しめ、園にある本よりも図書館には色々な種類があり、それをまた教えて頂けるので、多くの幼稚園や保育園に送るお知らせに、図書館に行った園が良かったと思ったことなどを載せると、行ったことない園が行ってみようと思うのではないか。毎年お知らせが来ると必ず参加しようと子ども達と楽しみにしている。

中央図書館長 ありがとうございます。色々案内を出させて頂いているが、どこまで届いているのかが悩みどころとしてあった。今お話を伺って案内に「団体利用で図書館に行って、こういうところがよかった」というようなコメントを添えることができると、注目度が変わってくると思うので、是非参考にさせて頂きたい。

議 長 ありがとうございます。小学校前の段階で、そのような図書館の活用を学ぶというのは本当に良い事例かと思うので、是非今後も周知のほどよろしくお願いします。

委 員 学校の図書館と、横須賀市立の図書館・図書室とはどういう住み分けをしているのか。学校図書館は司書の先生がいらしてそれで相談に乗ってくれて、学校にない本は市の図書館等と連携して団体貸し出しなどをされているのか。

- 中央図書館長 本の購入をする際、特に学校の蔵書との調整までは出来ていないと思う。購入する本の冊数が全く異なる。また児童図書館以外も、例えば中央図書館だと児童書というのは割合が少ないので、一般書が大半というのはまず一つ大きい違いだと思う。ただ中学生だと、必ずしも児童書ということでも無いので、図書館を利用して頂いてまとまった冊数での貸出サービスを使ってもらっている。
- 委 員 図書館デビュー応援事業は便利なサービスだが、告知はどこでされているのか。図書館だけなのか、それともLINEなどを使っているのか。小さいお子さんがいらっしゃる方などがぜひ利用したいと思うサービスだと思うので教えていただければ。
- 児童図書館長 図書館デビュー応援事業では、3・4ヶ月時検診の時にブックスタート事業でおすすめの絵本などをお渡ししている。
- その際に会場でお話し会、読み聞かせを開くが、その日は忙しかったり、子どもがぐずってしまったりして参加できずに帰ってしまったお母さんやお子さんの補完をしようということで、令和4年度から予約制でお話を聞きに来てくださいという形でやっていたものを、令和5年度からは毎週木曜午前中に誰でも予約なしで参加できるようになった。周知としては、広報よこすか、図書館のホームページなどへの掲載と、図書館、図書室のほか各健康福祉センターなどで児童図書館の年間予定を配布している。
- 議 長 広報としてはXを使っているということだが、図書館デビュー応援事業などを利用するような世代として、小林委員はどのようなSNSだったらいと思うか。
- 委 員 横須賀市の公式LINEで、対象を選んだら情報が流れてくるのは便利。ちなみにLINEには情報を流しているか。
- 児童図書館長 Xや図書館ホームページを中心にPRを行っている。実際、図書館デビューのお子さんを持つ保護者の世代だと、インスタグラムやLINEの方がPRの効果が高いように思うのだが、市のデジタル・ガバメント推進室や広報課というところで、情報の取り扱いのきまりなどがあり、決裁手続をして、許可を得てから情報を流すので、なかなか速達性が無く運用が難しい。
- 中央図書館長 補足だが、LINEも使っている。LINEで流した方が反応はいいイメージはあるが、今申し上げたように実際にLINEを流す何日も前に申し込まなくてはいけない。また一度PRしたものを何度も掲載するわけにはいけないので、タイミングを見計らってやるようにしていきたい。
- 委 員 LINEは多くの方が利用しているし、情報をとりに行かなくてもスマホを持っていれば

情報が流れてくるので、パッと読みやすいし見やすい。LINEだけでなく色々見るが、忙しいお母さんだと自分で情報をとりに見に行かなくてもLINEで受信して「横須賀市から来ている」というのは、やりやすいのかなと。

中央図書館長 なるべく、使えるものは使っていければと思っている。

議 長 貴重なご意見をありがとうございました。

説明員退席

3 議事 家庭教育支援について

議 長 子どもと家庭の現状についての認識の共有について、事務局から説明をお願いします。

事 務 局 子育て支援課から資料3を用いて（1）横須賀市のこどもや子育て家庭等を取り巻く状況について、教育指導課からは資料4を用いて、（2）令和6年度（2024年度）学力等調査の結果について説明がある。

本日の説明を参考に、委員の皆様の日頃の活動やご経験を踏まえ、今後の審議のポイントについて意見をいただきたい。考えをまとめる時間が必要だと思うので、記入用紙は持ち帰りいただき、11月15日（金）までに返信用封筒、または電子メールで送っていただきたい。皆様からの意見等をまとめて次回の会議の資料とし、家庭教育における課題の洗い出しとそれに対する家庭教育支援について、今後審議を進めていくのでよろしくお願いします。

（1）横須賀市のこどもや子育て家庭を取り巻く状況について

子育て支援課主査から説明を行った。

<質疑応答>

（質疑なし）

（2）令和6年度（2024年）学力等調査の結果について

教育指導課長から説明を行った。

<質疑応答>

議 長 それでは私からよろしいか。8ページの調査結果、学習習慣の結果が、全国平均を下回っ

ているという事で、家庭でも学習につなげることができるような指導改善の必要があるというふうなお話もいただいているが、具体的にどのような指導が望ましいか、教育指導課の見解をお話しいただけるとありがたい。

教育指導課指導主事 安易に宿題を出せばいいというものではないと思っている。授業の中で子ども達が疑問に思うことやもっと調べたいなと思うこと、それを家庭学習に繋げるような授業改善をするということを各学校の先生方にご指導をいただきながら、授業改善という視点での家庭学習との結びつきが出来ればと思っている。

議 長 ありがとうございます。

副 議 長 教指課指導主事と以前、学力向上委員会でお話をしたことがあり、その時の話もかいつまんでお話しすると、10年前の調査の時点から横須賀市は全国平均より下で、先生の資質という話もあるのだが、僕はちょっと違うのではないかとと思っている。小学校1年生の時点で全国平均を下回っていて、先生の力云々ではなく、もう小学校1年生の段階で、古い結果だと20ポイントぐらい違うのもあったりもするという状況。ずっと平均より下にいる。横須賀市に限ってという状況ではないかもしれないが、横須賀市内での家庭での勉強に対する環境が少ないといったところもあるのかと。スマホが1人一台の時代で利用時間が長かったり、孤食であったり、ゲームの時間数も横須賀市は多かったりすることが特色に結びついてしまっているのかと思う。これはちょっと感想だが。一つ、北井指導主事にも伺いたい。そのときの学力向上プランで、学び合う集団の育成というのがテーマで、おそらく今年はこのプランで進んでいると思う。目立ってはまだ、数字には出ていないと思うが、粘り強さとか何か改善が見うけられとかいうようなことはあったか。

教育指導課指導主事 質問ありがとうございます。確かに正答率というところでは全国を上回っておらず、あまり上昇傾向にないが『主体的、対話的で深い学び』という視点の質問項目については、令和3年度から少しずつではあるが伸びてきている。主体的に学ぶことを自覚している児童生徒が増えているということは事実。それも全国と比較すると同じように正答率との差がある気はするが着実に育っているという事実がある。

副 議 長 よかった。

委 員 この調査結果をピックアップして表にすると、横須賀は平均よりも低い、全部低いと捉えられてしまいがちな傾向があるが、今の話を聞くと必ずしもそうではないこともある。全国平均より低いので、ダメだと捉えられがちだが、社会教育に携わる者としては、そういう見方をしたくない。点数でどうこうではなく、それぞれの平均より良いところの項目で

は、その子どもたちがどういう生活を送っているのか、あるいは平均より低いところの項目では、子どもたちの生活体験や生活時間の工夫とか、色々な原因があるので、横須賀市だけポンと出してみても分かりにくいのではないかと。全国でも均一ではなく色々な地域領域があるので、そのデータと比べられると分かりやすかったかもしれない。

議長 ありがとうございます。マイナス面が目立ってしまうかもしれないが、主体的・対話的・深い学びという話もいただいているが、例えばP.16の29、38、63というのは、横須賀市の子どもたちが、積極的に発表したり、総合的な学習の時間に頑張ったりしたことで全国平均より高めの値が出ているので、先生方の指導の成果が出ていると思ってよいのではないかと。

委員 小学校の総合学習や環境学習の時間に、環境政策課を通じて授業に講師として来てほしいと依頼を受けたので何校かにうかがったが、8ページのグラフのように、対話とか話し合いとかでよい面が見られ、積極的に発言している子が多いと感じた。蛭田委員のおっしゃるように、良い点を見つけて、こういった点を活用できないだろうか強く感じた。

議長 ありがとうございます。

委員 今の話は子どもたちの現状で、その前の話は子育てについての調査結果で、別々に話を聞いているので、それぞれに問題があるように感じてしまうが、子どもたちの学力等調査と例えば子育てに対する悩みを掛け合わせると、より立体的な問題が把握できるのではないかと。別々の部署で行っている調査で横断的に横串を刺すようなことは難しいかもしれないが、子どもに対する問題だから子どもだけで解決するというわけでもなく、子育ての問題というのは当然、親を含めてという話になるが、上手く組合わされていくと、問題を立体的にとらえて、課題解決のためのより良いヒントが得られるかと。もし、機会があればそういうチャレンジをしてもらえればと思う。

議長 ありがとうございます。常田委員は、日頃より子どもにかかわる活動をされているが、調査の結果について質問やご意見はいかがか。

委員 この学力等調査は自分も児童生徒の頃に回答したが、子ども達本人がどこまで本気でやっているのかと思うこともある。自分はきちんと回答したが、適当に回答している友人もいたので、結果だけが真実なのかと疑問に思うところもある。

自分はボランティアに参加しているが、一番小さい子は小学6年生から一緒にボランティアをしてくれていて、そういった子ども達を見るととても積極的。自分より年下の子ども達がどうやったら楽しんでくれるかを一生懸命に考えてアイデアを出してくれる。それぞれ個性があると思うが、マイナス面だけ見るのではなく、良い面を褒めていきたいし、そのような子ども達が活躍できる場がもっと横須賀にあるとよいと思う。

議 長 ありがとうございます。他には。

委 員 保護者の方は情報が数多くありすぎて、逆にどれを選んでいいのかわからなくて悩んでいることもあるようだ。また幼児教育が無償になって、保育園や幼稚園にお金がかかりすぎる分、習い事にお金をかける傾向が強いと感じる。子どもたちの「面白いな」「不思議だな」「どうしてだろう」という気持ちや「どうしたらこうなるのだろう」という問題解決能力だったり、不思議さを発見したり、そういう体験が親子で普通の生活の中で、もっとたくさん出来るといい。図書館に行ったり、美術館に行ったり、海や山、自然がたくさんあるのが三浦半島なので、親子で一緒に体験しながら自然と興味や関心を持っていくことが、小学校、中学校の学習能力に向いていくのではないかなと思う。

デジタルや機械の中だけの架空の体験ばかりが多くなって、実体験が少なくなることを危惧している。一方で、今までコロナであまりそういう実体験ができなかったのが、このところイベントも多く、親子で参加できるようなものもあるので、そこにちょっと知的なものだとか、発見できるような工夫があると、子どもの意識が高まるのではないかなと思う。

議 長 ありがとうございます。今の小学生、中学生は学校の授業ではいわゆるギガ端末、個人ではスマホを使ったり、ゲームをやったり、直接的な体験が減ってしまっている。実体験はとても必要だが難しいところがあると思う。

子育て支援課から説明があったように、経済的な理由で子育て自体に不安を持つような家庭も多いのではないかな。2019 年から幼児教育無償化が始まったので、習い事を増やしている家庭も多いのではと思うが、体験の大切さ、経済的な状況、教育現場でのプログラミング学習、ネットや AI を使って何かをやっているという流れなど、様々に折り合いが必要なことがあると思う。

世の中の情報も過多であるので、どのような情報があるか、押しつけはできないが、選択肢を示しつつ、よりよい情報にアクセスできるようになるか、横須賀の恵まれた博物館、美術館といった施設をいかに活用できるか、ということについての情報を提供していけるとよいのではないかなと思った。

副 議 長 P T A 会長や市 P T A 協議会会長として P T A で情報交換会等をした時に、家庭教育というものの自体あまりできる機会がない、少なくなっているというのを痛感した。子ども会が少なくなっている。昔は子ども会に入って、親が役員をやって、そのまま P T A に入って、P T A で役員をやって、地域で町内会等地域の役員をしていくという段階がちゃんとあった。

また、子どもは地域が育てる。町内会であったり、子ども会であったり、サポートしてくださる方が育て上げるということがあったが、このような機会が失われている。

家庭に目を向けると子どもは塾があったり、習い事が多かったり、食事も孤食である。何か聞きたいことがあっても親に聞いたり相談したりするのではなくスマホに聞く、AI に聞

く。これをすすめてしまうと、先ほど話があった横須賀市の風土にある地域の特性だったり、恵まれた施設に行ったりということが減っている。美術館や博物館、海にまつわるものなどいろいろなものがある。子ども達が家族揃って出かけられるような環境を整えてあげるような話し合いが今期できればと思う。

議 長 ありがとうございます。

説明員退席

4 その他連絡事項

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和 年 月 日

議事録署名人